ＰＴＡ新聞 おきなわ

発行
（一社）沖縄県ＰＴＡ連合会
〒900-0002
那覇市曙2-26-27
ＴＥＬ（098）867-3582
ＦＡＸ（098）867-0309
責任者　宮城　光秀

北の大地に8千人

第63回 日本全国ＰＴＡ研究大会 札幌大会

第63回日本ＰＴＡ全国研究大会札幌大会が8月21日分科会（10ヵ所）・22日全体会と開催された。全国から8千人、沖縄県ＰＴＡ連合会からも237人が参加し、議論を深めた。

2日目の全体会では、脚本家の倉本 聰氏による演題「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」の記念講演の後、実行副委員長松田 健一郎の音頭のもと、参加者全員で決議した大会宣言を行った。

来年度開催開される「徳島うずしお大会」のメンバーも駆けつけ、今大会からのバトンタッチと徳島うずしお大会のＰＲを行った。

分科会参加報告

第1分科会「組織運営」

沖縄市立美東小学校
校長　與那嶺　忠

南極料理人の西村淳氏の講演会では、「チーム力は無理矢理つくるものではなく、目的に向かったときに自然発生し、集結するもの」という言葉が印象に残りました。どうしてもＰＴＡにおいて、人手が足りなかったり、同じ人に負担がかかる等の傾向があるため、人集めに目が行きがちですが、やはりＰＴＡの目的「子どもたち全員の幸せが自分の子の幸せにつながる」を全保護者に周知し、賛同する保護者を一人でも多く活動に参加させることが必要だと感じました。

第2分科会「家庭教育」

中頭地区ＰＴＡ連合会
島尻　順子

基調講演の講師は、札幌市の丸山動物園の園長・田仲俊成氏でした。動物園の社会的な役割は「命」の大切さを知ること、動物の親子の情愛を通して、家庭教育の原点が動物園にあるということをまとめていたように思います。ＰＴＡ会長・副会長のパネラーたちを交えてのパネルディスカッションでは、ＰＴＡ活動を通して、親子の会話が増え、子どもの友達の顔がわかり、道で子どもたちから声をかけられるようになったことから、「学校」を媒体とするコミュニケーションが、家庭教育の基本ということが印象に残っています。学校・地域が手を携える中で、家庭力が生まれること、子どもと保護者、学校と地域の中に、美しいハーモニー

第6分科会 植松 勉 氏

を奏でられるようなＰＴＡ活動が、「子どもの未来の道しるべ」なのだと思いました。

第3分科会「学校教育」

富里中学校
校長　濱比嘉　健

基調講演では元札幌市教育委員会教育次長の本間英明氏の講話を拝聴しました。話のはじめは、昨今の心が荒廃していると感じる痛ましい事件や学校の先生にも色々といて余り褒められない先生の話やモンスターペアレンツの話でした。そのあと、親が子を思う気持ち、子が親を思う気持ちの感動的なお話を聞かせて頂きました。親としての立場、子としての立場を改めて考えさせて頂きました。親や子は身近な存在で、雑な対応になりがちなので、それぞれを思う気持ちをきちんと認識しながら日々暮らしていくのが大切だと感じました。討議の部では、北白小中学校が、防災宿泊体験～地域の方と子どもたちで、防災の勉強をしながら、学校に宿泊した活動が発表され、参考になりました。

第4分科会「広報活動」

うるま市ＰＴＡ連合会
桃原　隆幸

基調講演は、初の試みで「劇団32口径」という札幌の劇団による「捨てられた犬たちの心の声を伝えたい」といった演劇【SMILE】でした。広報活動と、この劇との繋がりに少々疑問を持っていました。しかし、演劇を鑑賞していくうちに広報活動の最大のポイントである【伝える・知らせる・解らせる】を違った観点から実感し「命を大切にする心を育む」内容の素晴らしい演劇に感動しました。最前列で鑑賞していると、会場内から、すすり泣く声が聞こえ、私も愛犬のいる生活をしているので、胸にぐっとくるものがありました。

大会スローガン

ひろがれ子の未来（ゆめ）！つながれ親力（おやりょく）！
～今 札幌から始まるこれからのＰＴＡ～

さて、広報活動のパネルディスカッションでは色々な討議をしていましたが、全国的に「広報委員のなり手が少ない」という問題を抱えていることが我々単Ｐだけではないことがわかりました。この問題を解決するには、明るく楽しく皆が参加しやすい広報活動を展開していく必要があるのではないかと実感しました。広報紙は、ＰＴＡ活動や色々な情報を多くの会員に発信する手段であるため、いかに読む側に伝えきれるか・読みたくなるような記事が書けるかがポイントになってくることがわかり、大変すばらしい分科会でした。

第5分科会「地域連携」

沢岻小学校
前野　恒宏

わくわくホリデーホールにて行われた第5分科会「地域連携」では、『子ども一人ひとりを育むための「地域連携」のあり方』を研究課題とし、さまざまな発表が行われました。

札幌麻生児童館館長 斉藤美季氏による、「児童館は地域のコーディネーター」と題して紹介された実践発表の中で、不登校気味の男子中学生達が毎回声掛けをされることで徐々に児童館に引き込まれ、小さな子どもたちの相手をしていくうちに、自分の居場所を見つけ、最終的には児童館のリーダー的存在にまで成長したという話を聞き、地域の大人が子どもたちを見守り、声掛けを行うことの必要性を再認識させられました。

私達の地域でも、子どもたちが安心できる居場所を作れるよう地域、学校、ＰＴＡがこれまで以上に連携できればと思います。

「地域の子どもは地域で育てましょう」

第6分科会「人権教育」

島尻地区ＰＴＡ連合会
金城　達功

植松電機㈱植松努さんの「思うは招く　夢があれば何でもできる」という講演を聞きました。

植松さんは、北海道にある植松電機㈱の社長さんです。20人足らずの会社ですが、リサイクル業界で使うパワーショベル用マグネットの分野で高い評判を得ています。また、試行錯誤の末、ポリエチレンを燃料とするロケットを飛ばすことに成功しました。今、国内にとどまらず、海外でも注目されている経営者の一人です。

植松さんの講演の中から、子どもたちへ聞かせたい言葉を紹介します。

①「どうせ無理」という言葉は、人の可能性を失います。
②「だったらこうしてみたら?」という言葉は、人の可能性を広げます。
③努力は我慢することではありません。夢や憧れを失わなければ、努力することができます。
④「Can Do! 感動」できるって事は感動です。

講演を聞いた後は、「あきらめずに頑張ろう!」とさらに元気になりました。

浦添市Ｐ連参加者(分科会会場前)

第7分科会
「国際理解・環境」
与那原東小　伊是名　知恵子
―歴史文化を体験活動へ―

グローバル社会の中で子どもたちが活躍できるよう、地域・沖縄の歴史文化をＰＴＡ活動の中で体感形として取り入れ邁進すべきだと改めて考え直す機会となり、参加できたことを心よりうれしく思います。

読谷小学校　池原　一葉

札幌市では、地域の自然を活かした自然体験を通して、ふるさと理解を深め、子どもたちの生きる力を育んでいるとのことでした。また、ＰＴＡ連合会では、市内の自然を活かした親子体験ふれあい事業を実施することにより、親子で自然と触れ合える機会づくりを提供しているとのことでした。環境ＮＰＯでは、大型ごみの抽選販売を行ったり、おもちゃ病院や洋服交換会など、市民が3Ｒ（リサイクル・リュース・リデュース）を意識するような取り組みを行っているとの報告もありました。

国際的とは、グローバル（画一的）ではなくインターナショナル（多様性を認めること）ということや、英語だけ覚えればいいということではなく、自分の国や地域のことを話せないと信用されないのが印象的でした。

自らの地域の歴史や文化にふれあい理解を深めることが、子どもたちの人間性や社会性を育てることになると再認識させられた第7分科会でした。

第8分科会「健康・安全」
宜野湾市ＰＴＡ連合会　伊佐　英士

駒谷農場会長・駒谷信幸さんの基調講演では、「食の安心・安全の確保に必要なことは」「子どもたちの食生活を豊かにするために」「食育の大切さをどう広めていくか」改めて食に対して考えようと感じました。

今、当たり前に食卓に並べられている食事の栄養について、子どもたちと食事をしながら教えていますか?私たち保護者が教えていかなければ、子どもはわかりません。食べることは生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。人との関わりも含め、心地よい食卓を作り出し、心の安定をもたらし、健康な食習慣の基礎になっていきます。またそうした安定した状態の中で、食べるという欲求に基づき行動し、その結果から学ぶ。自発的体験を繰り返すことで、子どもの主体性が育まれることにもなります。食の大切さ、食べられることに感謝します。

特別第1分科会
浦城小学校　末吉　松祥

基調講演は、千堂あきほさんと沢英里子アナウンサーによる対談でした。あきほさんの夢は保育士だったようですが、スカウトされ女優の道を選んだそうです。その裏には、父親の後押しがありチャレンジしたようです。しかし、女優になってからが大変で、親の応援なしでは挫折していたようです。親として、子どもに対してどのような支援が必要なのかを考えさせられました。

午後の研究討議には、地元の中学生との対談を沢アナウンサーによる質問形式で行っていました。思春期の子どもたちが、親への想いや願いなど直接聞くことができ、大人が思っている以上に成長している子ども達の姿が見られました。

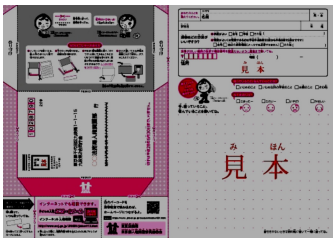
また、ディスカッションでは、尾上氏の子育て方法、加藤准教授の思春期の自尊心の変化と思考の発達の視点から話があり、「思考の発達があると、自尊心が下がっていく」という衝撃的な内容の話もあり色々考えさせられる大会でした。

特別第2分科会
沖縄県ＰＴＡ連合会　長山　勝美

「子どものための情報モラル」～子どもたちの現状とネット炎上～を研究課題にスマホ時代の大人が知っておきたいことを兵庫県立大学准教授　竹内和雄氏が基調講演して下さいました。

今や、子どもたちのメディア環境が大きく変化しスマートフォン等の長時間使用による生活習慣のみだれや、容易に情報を入手、共有、発信でき、不適切な利用による犯罪被害、プライバシーの問題などにつながるケースが年々増加しているところです。スマートフォン等の使用について、私たち大人がマナーを守るこなど子どもたちの鏡にならなければいけません。夜のスマホ使用を避け、「早寝、早起き、朝スマホ」をすることで、生活習慣の乱れを防げるのではないかとのお話があり参考になりました。

子どもの人権SOSミニレター



法務省では、毎年10～11月に、全国の小学校・中学校の児童・生徒に「子どもの人権SOSミニレター」（便箋兼封筒）を配布し、これを通じて身近な人にも相談できない子どもたちの悩みごとを的確に把握し、学校及び関係機関と連携を図りながら、子どもをめぐる様々な人権問題の解決に当たっています。

「子どもの人権SOSミニレター」に相談したいことを書いて、裏面の封筒部分を切り取り、便箋部分を入れてポストに投函すると、最寄りの法務局・地方法務局に届きます。切手を貼る必要はありません。

相談内容の秘密は守ります。

子どもの人権問題に関する電話の相談窓口

友だちから「いじめ」を受けて学校に行きたくない、暴力を受けて悩んでいる、でも先生や親には言えない・・・、誰に相談していいか分からない・・・。もしもそんな苦しみを抱えていたら、一人で悩まずに、私たちにお電話ください。悩んでいるあなたの力になります。

子どもの人権110番
0120-007-110

那覇地方法務局
沖縄県人権擁護委員連合会
平日午前8：30～午後5：15

木もれ陽　母校の武蔵野

学校には必ずと言っていいほど樹木の生い茂った場所がある。本校のそれは、保健室前の庭園である。この庭園は、私が小学生の頃もそこにあった。といっても今ほど上等ではなく、幅２m、長さ20m程の段々が３つあり、そこに潅木が植えられていた。私が教室のちり袋を、今の農具小屋の前辺りにあったちり焼き場に持っていくときにそこを通った。4年生ぐらいであったろう。小さな小学生には、そこはまるで林の様だった。

樹木の香り、梢を渡る風、足下をかすめる枯れ葉を踏む音、わずかな空間であったが、そのすべてが新鮮で心地よかった。私はそこを歩くのが好きだった。その時の気分、高揚感は今もよく覚えている。多感な少年時代の思い出である。

高校生になって、国木田独歩の「武蔵野」を読んだ。その行間からは、あの時の感覚が甦ってきた。

ここ南国沖縄にも四季はある。空にはうろこ雲がかかり、涼風が頬をなでる。クーラーの稼動も終わり、季節は秋である。

ところで、東北の秋を経験する機会を得た。秋田県の「学力向上フォーラム」に参加したのである。

花輪小学校の公開授業を参観した。児童は全体として落ち着いており、よく授業に参加していた。学習規律がしっかりしている様子が見て取れた。教師の指導法もふり返りを重視するなどの工夫が見られた。その教育実践に学ぶことは多かった。特に児童の真剣に学ぶ姿が印象的だった。

母校の校長として、学力の向上に力を注ぎつつ、感受性豊かな児童を育んで生きたいと決意している。

沖縄市立諸見小学校
校長　與座　朝和

第18回　我が校区の文化・歴史遺産 紹介

後世に引き継ぐ伝統行事・歴史遺産をカレンダーに！

『ちゅら島瀬底暦』

本部町の瀬底島には，伝統的な文化・行事がたくさんあります。今回はその1年間を伝えるべく誕生した瀬底区オリジナルのカレンダーをご紹介。色々な角度から写し出された島の表情、行事の様子を伝える写真が表紙を飾り、月ごとには区民の歴史を綴り、「シークすぐりむん」と題し瀬底の著名人を紹介しています。中には昭和５年生まれの４９歳祝い（ククヌトゥグンジュウ）の写真がモノクロで載っていました。区行事、家庭行事、団体行事が色分けされていて、さらに『農事暦』の欄では種まき・植え付け・害虫の情報もあります。

瀬底小学校の喜納すえ子校長は「瀬底区の行事には児童生徒、先生方が参加するので、新たに赴任してくる先生にはとても重宝しています。また学校行事や授業でも地元の人たちが協力してくれます」と話してくれました。親から子へ口伝えに引き継がれている元旦の「砂文字」やピージャーオーラサイなどもあり、島を散策すると面白いかもしれませんね。

発行されて4年、伝統行事を後世に伝えてくれるカレンダーもまた文化・歴史遺産になるのではないでしょうか。

広報通信委員　仲間　里枝
（国頭地区ＰＴＡ連合会）

おきなわ 北から南から

西表島干立 節祭（シチ）

広報通信委員 鬚川（ひない） 美穂
（八重山地区ＰＴＡ連合会）

西表島の祖納・干立地区で行われている節祭（シチ）。約500年も前から伝承されており、毎年旧暦の10月前後の己亥（つちのとい）に行われ、祭り2日目には前の浜で世乞い（ユークイ、五穀豊穣をもたらす神を迎える神事）を行う。旗頭を立て、船漕ぎや棒術・獅子舞、芸能などの様々な催しものが披露され、神々へ農作の感謝と五穀豊饒、健康と繁栄を祈願します。干立ではミルク行列に「オホホ」が登場し、滑稽な役を演じます。

『オホホ』とは、この節祭の際、干立集落に登場する仮面神。

「オホホ　オホホ　オホホホホホホ」

と奇声をあげながらひょうきんなしぐさで人々の笑いを誘い、見物人や女性や子どもにちょっかいを出したり、札束をチラつかせて人の気を引こうとしたりする人物です。今年は11月の中旬くらいに行われると思います。ぜひ一度見物してくださいね。祭りの日は地元出身者が多数、里帰りをして祭りを盛り上げます。

また、1991年に国の「重要無形文化財」の指定をうけています。

我が家の子育て

顔を見て 目を見て

「おはよう」

1日の始まりは朝の挨拶から。たとえ大喧嘩をしていても「おはよう」の挨拶は必ずすること。これが妻と話し合って決めた、我が家の最初の決まりです。その後いくつかの決まりが増え現在は

一、必ず「おはよう」の挨拶をする
一、他の人（よその家）と比べない
一、高校に入学するまでは、携帯を持たない
一、高校を卒業するまで「外泊禁止」
一、専門学校、大学への進学は自分の力で

結婚2年後に長男が生まれ3才の頃、中央児童相談所で「お子さんは、自閉症です」と言われました。25年も前のことで、今よりも発達しょうがい児への理解も少なく、発達しょうがいを自閉症と、ひと括りにしていた時代です。

ショックで、現実を受け入れることが出来ずに居ましたが、しょうがい児を抱える親が運営する「たんぽぽ」で子どもたちと触れ合ううちに、みんな個性があり、出来ることや、成長の速さが、一人ひとり違って良いんだと知ることが出来、子育てに少し自信を持つことが出来ました。

我が家は、4男2女と子宝に恵まれました。下の子どもは、上の子どもの行動や言動から、私たち夫婦の逆鱗のボーダーラインを学び要領よく立ち回り、時にはボーダーラインを広げようと、あの手この手で、夫婦を試す波状攻撃を仕掛けてきます。時には折れそうになることも有りましたが、今日まで「我が家のルール、子育ての方針」を曲げずに貫き通す事が出来たのは、妻と、方針、方向性を共有出来ていたからこそと、感謝しています。

私が、子育てで気を付けていることは、話をする時は顔を見て目を見て話す。子どもの友達は勿論、兄弟姉妹とも比べて評価しない。過ちを犯した時は、理解出来るまでとことん話し合い、約束を交わし和解したら二度とその過ちを持ち出して責めない、等です。

最近は、成人した上の子どもたちが、下の子どもの面倒を見たり、経済的な支援をするなど互いに支え合い、子どもたちで考え行動しているのを見るに付け『ガンバレ子どもたち、ありがとう子どもたち』とエールを送る、涙もろくなったオヤジです。

浦添市ＰＴＡ連合会
会長　親盛 徳三

第１３回

「攻守一体」の信念を身に着ける！

県庁と市役所との高いビルに囲まれた那覇市立開南小学校のグラウンドで元気いっぱいサッカーの練習に励む開南ＦＣ。その子どもたちを指導するのはサッカーコーチ歴11年目の**當山 司コーチ**です。當山コーチは低学年を担当、モットーは「小学生だけどサッカー選手として、男女平等に向かい合うこと！」とニコニコ笑顔で話されました。

開南ＦＣが信念として掲げる「攻守一体」。選手全員が攻守一体という共通の意識を持ち、守備のことも考えて、常に最適なポジションを取りながら攻撃していく。小学生には難しいようにも思われますが、當山コーチは「低学年の間にコミュニケーション能力を培い、チームワークをしっかりと築くことでその目標に近づく。常に相手の立場になって物事を考えることのできる選手育成に励み、それが身に着けていれば、高学年になって良いプレーができる！」と子供たちに熱いエールを投げかけます。

それに応えるように、開南ＦＣの高学年チームは、強いチームとして一目置かれるようになり、素晴らしい成績を残してきました。それは當山コーチの指導の賜物なのだと、この取材を通して感じました。

広報委員　伊波　郁美

開南ＦＣコーチ
當山　司さん

農業体験活動での少年の立ち直り支援

はいかい０へ夜回りの人たち

小禄・豊見城地区
少年補導員協議会会長
狩俣　稔さん

豊見城、那覇小禄地区の６中学校の生徒に、農業体験を通して少年の非行防止や立ち直りを支援しようと、平成21年にJAおきなわ、那覇市・豊見城市の教育委員会、小禄・豊見城地区少年補導員協議会で少年の居場所づくりに関する協定を締結した。農業支援には、ほかに豊見城警察署、スクールサポーター、市内の店舗等が加わり、野菜の栽培や販売に取り組んでいった。

今年で６年目に入るが、当初、農園には馴染まなかった少年達だったが、農作業のなかで、仲間との会話、ふれあい、そして支援者などからの指導や助言などで、周囲とのコミュニケーションが取れるようになり、今では自ら進んで参加するようになっている。

今まで無口で話をしなかった彼らが、自ら話しかけてくるようになる。

「植物と人間って似ている、植物に必要な光と水は私にとってはご飯と勉強。植物は人のために食べられ、人間は人のために働く。社会に出たときには精一杯頑張って生きて行きたい」と農園で感じ取った自分の本当の気持ちを話してくれたのがとても印象的だった。

５年間で農業体験活動に係わった788人の少年の中には、農園で知り合った２人が結婚して子どもを授かり、立派な社会の大人として頑張って活躍しているものもいる。

沖縄からこの活動が発信され、今では全国に、農業体験による少年の居場所づくり・立ち直り支援活動の輪が広がっている。

働く喜びと感謝の心を培ったことを励みに心豊かな生きる力を身につけて社会に必要とされる人間に育ってほしいと願う。

編集後記

沖縄に秋はないのでは？と思っているのは私だけではないと思いますが、最近感じるのは周囲の方から数種類の野菜を頂くことが多く収穫の秋を感じます。また、それをベースに食欲の秋もついてきて……。

今号は全国PTA大会参加者の声を特集に盛りだくさんの内容となっています。今回の発行にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

（比嘉志麻子）

広報委員
比嘉志麻子（島尻）　新垣　早苗（中頭）　末吉 建作（那覇）
伊波　郁美（那覇）
通信委員
仲間 里枝（国頭）　大川　艶子（宮古）　鬚川 美穂（石垣）

加入してよかった！みんなに勧めよう！
保護者の皆様の強い要望から生まれた
沖縄県 PTA 連合会推薦の ――
『小・中学生総合保障制度』
（こども総合保険）
AIU保険 Member of AIG
＝引受保険会社＝
ＡＩＵ損害保険株式会社 沖縄支店
=保障制度に対してのお問い合わせは=
◆小・中学生総合保障制度事務局◆
（あい保険工房内）
住所　：〒901-2126 浦添市宮城２－２４－２
ＴＥＬ：０９８－８７８－００２５